

長野市立

博物館だより

第24号



▲二十五菩薩来迎図（長野市・善光寺大本願蔵）

第33回特別展

浄土信仰の美

/// 浄土へのあこがれ ///

1993年9月19日～10月17日

●プロローグ

「信仰」とはなんでしょう。これは多くの学問が共有してもつ問題なのかも知れません。

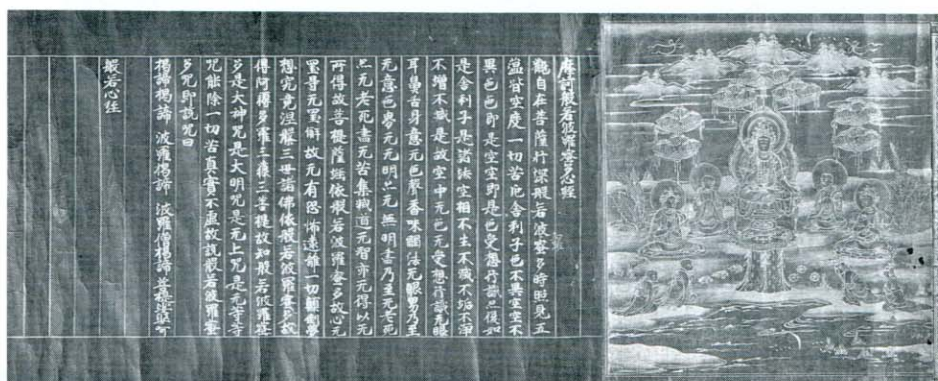
長野市には、おおくの信仰をあつめている善光寺があります。善光寺の存在は、日本の歴史のなかに突出しているばかりか、むしろ特異な光を放っています。この特異性は、長年つちかってきた庶民信仰がなせる業でしょう。

このことは、善光寺のみならず、長野市内や、広く善光寺平にあるおおくの寺院にも共通しています。親鸞聖人と深い関係をもつお寺や、蓮如上人と深い関係をもつお寺、その他、古くからの法燈を守りながら、今日なお、おおくの参拝者を集める寺院。こうした長い歴史は、今日におおくの信仰対象を伝えてきました。これらは、美術的価値を追求するのではなく、そうした信仰対象に思いを語り続けた人々の姿を重ねあわせることによって、はじめてわたしたちが感銘を受けるのでしよう。

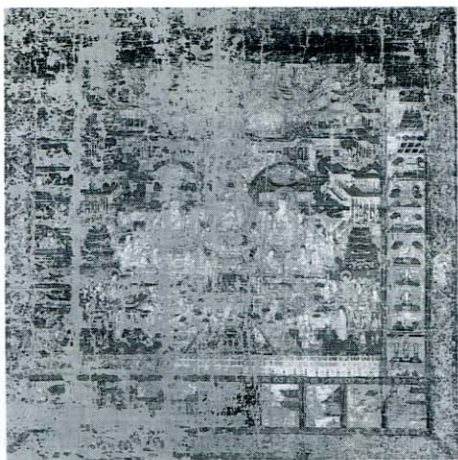
今回の展示の主題を、わたしたち人間が共通してもつ「死」という現実と、それについての「信仰」にもとめています。そして、その中心になった、浄土信仰と、浄土信仰によって育まれた信仰対象を中心に展示が構成されています。

また、展示の題名を「美」ということはをもちいてはいますが、この根本には、こうした人々の気持ちを、「美」と言い表わし、こうしたわたしたちの祖先の気持ちを知らせていただくことを目的としております。

いにしえ人の心性に近付いてみませんか。



▲紺紙金泥般若心経（下伊那郡高森町・瑠璃寺）



▲絹本着色浄土曼荼羅図
(山梨県甲府市・善光寺 山梨県指定文化財)



▲絹本着色釈迦阿彌陀発遣来迎図(下伊那郡高森町・瑠璃寺)



▲刺繍阿彌陀三尊来迎図
(長野市・善光寺大勧進蔵)



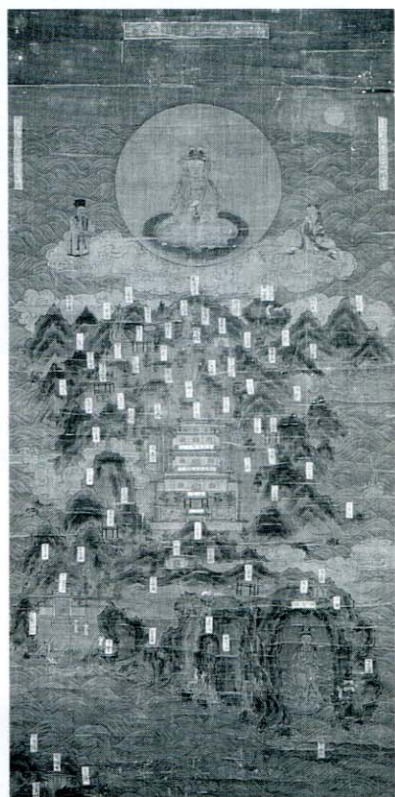
▲絹本着色山越阿彌陀三尊来迎図(長野市・苅萱山西光寺蔵)



▲絹本著色十二光仏十
字名号本尊
(長野市・長命寺蔵)



▲紙本著色戸隠惣山之図
(戸隠村・武田伯雄氏蔵)



▲絹本著色補陀落山観音図
(木曾郡大桑村・定勝寺蔵)



▲紙本著色一遍上人絵伝 (十日町市・来迎寺蔵 十日町市指定文化財)



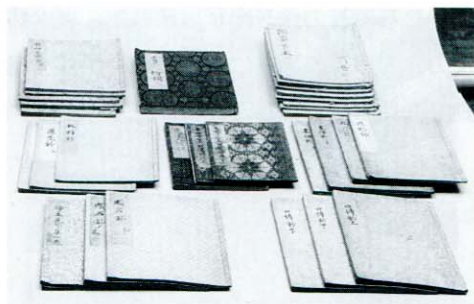
▲銅造観音菩薩立像
(須坂市・源信寺蔵)



▲鉄像阿弥陀如来立像 (本城村・八木
虚空蔵堂蔵 本城村指定文化財)



▲二枚起請文 (新潟県上越市・浄興寺
蔵 新潟県指定文化財)



▲古写聖教類 (新潟県上越市・浄興寺蔵
新潟県指定文化財)

●エピローグ

「浄土」とは、きわめて概念的ではありますが、日本文化を支えてきた中心的な問題であり、また、中世以来の文化や人々の考え方を知る上で不可欠な問題です。日本人の心の奥底に、現在でも生き続けている、地獄への恐怖・極楽へのあこがれは、これからさきも受け継がれていくのではないのでしょうか。

この展示を通じて、わたしたちの祖先が、心の支えとして信仰してきた信仰対象を、単なる美術品としてではなく、そこから湧き起こる人々の心性にまで触れていただければと考えております。

今年の博物館は ちよつと 違う!!

平成5年度も半ばにさしかかろうとしています。博物館では、今年度、新しい事業をいくつも起こしております。その幾つかを紹介いたしましょう。

① 長野市立博物館友の会が発足

博物館活動の要ともいえる友の会が、この6月1日に発足いたしました。まだ発足したばかりで友の会としての積み重ねはありませんが、従来から博物館活動に御参加いただいた方々を中心として会の発足がなりました。

博物館には、3年前から活動を続けている、古文書同好会・1年あまりになる土器づくり同好会がありました。

これとは別に、4年ほど前から古文書整理をしていただいている方々もいます。学芸員が資料整理に費やす時間が限られるという現状がある以上、こうした人々の協力なくしては博物館は動かないという現状があります。

このように、博物館には多くの方々が集い、活動をしていましたが、こうした個々の活動をまとめるかたちで友の会を発足しました。機は熟したともいえるでしょう。

友の会の今後の活動は、各種の見学会・自然観察教室・通信添削講座などがあり、ますます会の活動は活発になることでしょう。



▲ 役員を選出



▲ 総会後の記念写真

② ミュージアムグッズを販売

近年、多くの博物館でいわゆる「ミュージアムショップ」がおかれるようになりました。これは言うまでもなく、その館独自の商品販売するもので、今日では、博物館になくてはならないものとまでいわれるようになってきました。

長野市立博物館でも、2年ほど前からこうしたミュージアムショップとまでは行かないまでも、ミュージアムグッズの販売を計画していました。今年度、こうした経緯のもと、3種類の商品を販売することとなりました。

このうち、現在販売しているものは次の2種類です。

テレホンカード（3種類） 各 800円

川中島の戦い姫屏風（2種類） 各2500円

記念に一品いかがでしょうか。



川中島の戦い・上杉謙信車懸りの図上

長野市立博物館全景(右上)

茶臼山自然史館展示室(右下)



長野市立博物館全景



茶臼山自然史館展示室



▲川中島の戦い・両雄の一騎打ち（六曲）



▲同（見開き）

③ 2つのコンピュータシステムの導入

現在、博物館の諸活動にコンピュータをもちいる例がふえています。

今年度から、当館には、展示室での情報提供を主とするコンピュータシステム（マルチメディアシステム）と、収蔵品をコンピュータ管理するシステム（収蔵品管理システム）の導入を行ないます。

(1) マルチメディアシステム

常設展示室内に、情報提供を主目的に導入されます。今年度導入するのは、長野市内の指定文化財を、地域別・年代別・種類別に選べるシステムと、展示室内のものを中心に、難易度3段階から出題されるクイズの2種類のを導入します。コンピュータは、マッキントシュを使います。

両者とも、9月23日には展示室内にお目見得する予定です。かわいがってください。



▲「クイズ出題を担当するんだ」



▲公開システム想像（早稲田システム提供）

(2) 収蔵品管理システム

博物館は展示するばかりでなく、多くの資料を蒐集、保管しています。こうした多くの資料を整理し、公開するのが博物館にかせられた中心的な仕事です。しかし、資料が多くなるにつれ、博物館資料の整理は、従来の方法では追いつかなくなっています。このため、目録を作成し、収蔵品を皆さんに知っていただくまでには何年もの年月を要することになります。

このシステムでは、従来の整理を尊重しつつ、博物館を利用していただく皆さんに、早く収蔵品を調べていただけるようにという目的のもと、「収蔵品公開システム」（収蔵品のコンピュータを使って検索するシステム）を含めて考えています。

このシステムのうち、収蔵品管理システムは9月中ごろに導入されますが、これは博物館の管理用に主として使います。皆さんが博物館の収蔵品を調べるためには、公開システムを使ってもらうこととなります。これを使っていただくと、収蔵品の写真やデータが一目でわかるようになります。これも展示室内に10月頃にはお目見得する予定です。多くの活用をお待ちしております。